みかんは人の半生・四〇年を共に生き、枯れていく果樹である。
最初の一〇年は果実は取れず、世話をする毎日。
そんな貴重な橙色の果実が、蒲原の山では数えきれないほど実っている。
先代が後世へ伝えてきたことで、みかんと山は守られてきた。
みかんと寄り添い、山と寄り添い、人と寄り添う。
農宿場はまだ始まったばかり。